

山形県東根市蟹沢遺跡 出土骨角器について

川添和暁

東海地域の縄文時代・弥生時代骨角器との比較検討をするため、山形県蟹沢遺跡出土資料の調査をする機会を得た。本稿では、特に腰飾りと固定鉾（逆棘付刺突具）について取り上げる。腰飾りは蟹沢遺跡を象徴する資料として古くから知られているものであり、固定鉾（逆棘付刺突具）は内陸部の遺跡で出土した数少ない事例として注目される。

1. はじめに

考古資料の評価を行う際、愛知県内の資料を扱う機会の多い筆者であるが、現在の行政区画である愛知県内の資料のみで完結するものでは決してない。先史時代においては、広域の関係性が展開する事例はいろいろ知られており、骨角製装身具類についてもその実態・様相が解明されつつある（川添 2019）。

平成 29（2017）年、筆者は山形県蟹沢遺跡出土資料の調査を行う機会を得た。限られた紙面ではあるが、その資料調査概要を紹介する。

2. 蟹沢遺跡について

遺跡の概要は、『東根市史』に詳しい（阿部・加藤ほか 1989）。蟹沢遺跡は、最上川東岸側、山形盆地北東部に発達する乱川扇状地の、野川と白木川とに挟まれた扇状地末端部に位置する（図 1）。標高 98m を測る扇状地端部付近では湧水点が散在しており、他にも郡山遺跡など縄文時代後晩期の遺跡の所在が知られている。

蟹沢遺跡は昭和 35（1960）年、昭和 42（1967）年に二度調査が行われ、昭和 61（1986）年には市道改良工事に伴って、遺物が採集された。

遺物のうち土器は縄文時代後期末から弥生時代前期の遺物が出土し、特に、晩期中葉の大洞 C2 式併行が主体とされる。石器・土製品・石製品のほか、骨角器および動物遺存体^{*}の出土

^{*} シカ・イノシシ・ノウサギ・ムササビ・マガモ・カモ類・カエルがあり、哺乳類は四肢骨が主体で、シカは下顎骨の出土もある。

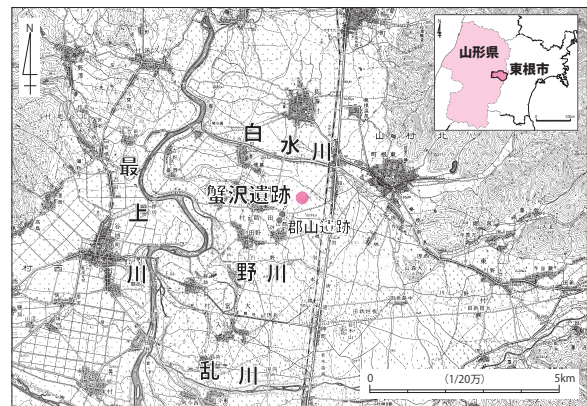


図 1 蟹沢遺跡位置
（昭和 9 年 旧陸軍陸地測量部 5 万部 1 地形図「楯岡」より）
も報告されている。

3. 蟹沢遺跡出土骨角器資料について

蟹沢遺跡からは、これまで針 2 点、腰飾り 1 点、固定鉾（逆棘付刺突具）1 点が確認されている。針は鹿角製、シカ管状骨製が各 1 点出土している。いずれも 10cm を越えるもので、実際はヘアピンである可能性が考えられる。本稿ではそれ以外のものについて述べる。資料自体の個別説明は図中に示した（図 2）。

鹿角製装身具類【腰飾り】 1 は、先学によってすでに紹介されているもので、蟹沢遺跡を代表する資料である（渡辺 1962・春成 1985）。この腰飾りといわれる鹿角製装身具類は、日本列島の広域にわたって、いくつかの種類のものがそれぞれ点的に展開する（川添 2019）。男性に関連する装身具で、筆者は男性側面からみた社会集団関係が表れているものと考えている。加えて愛知県田原市保美貝塚出土資料をもとに、およその編年的配列を示したことがあ

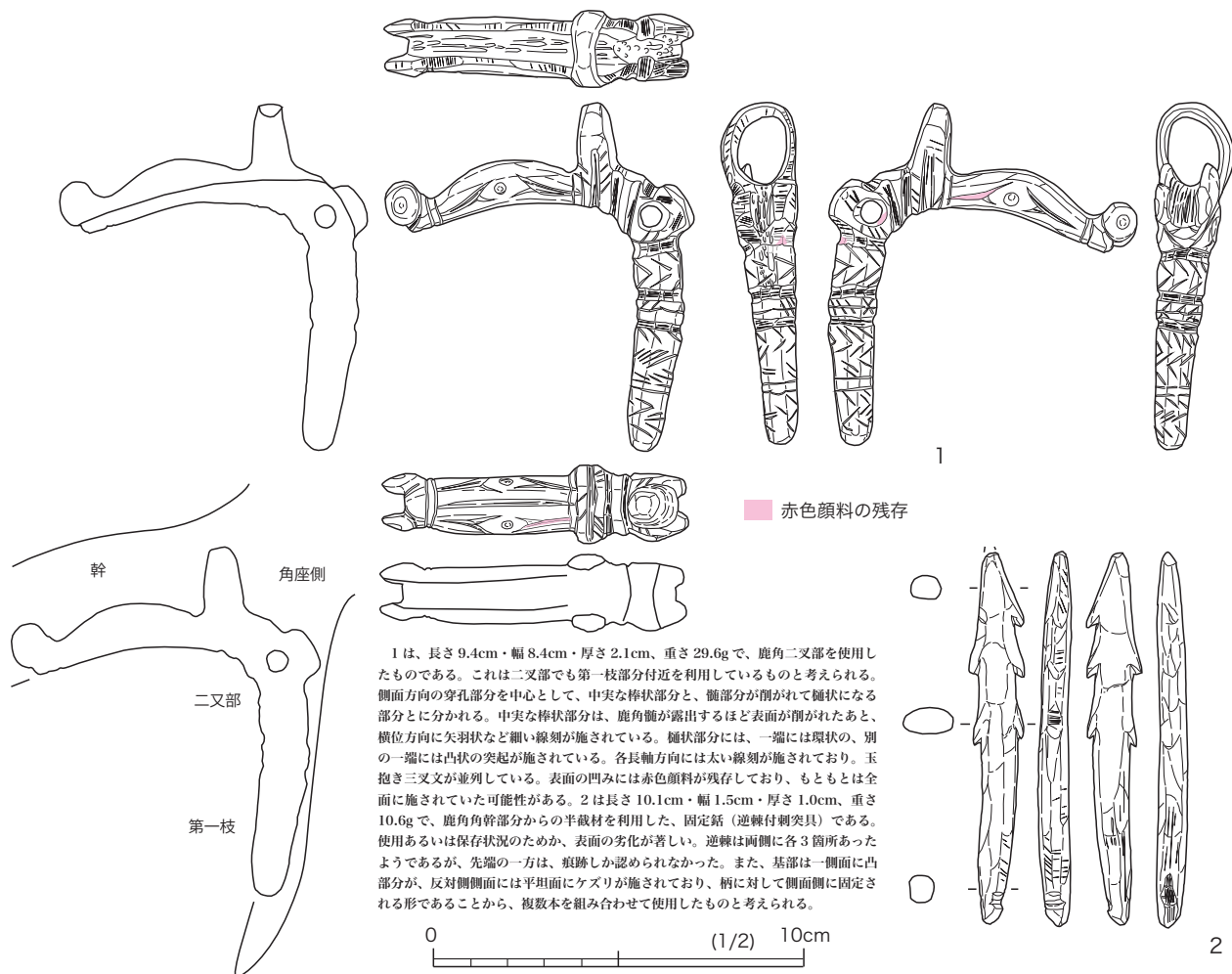


図2 蟹沢遺跡出土骨角器
(1. 腰飾り：本間亮典氏所蔵、2. 固定鉗〔逆棘付刺突具〕：東根市教育委員会所蔵)

る（川添 2017：335 頁）。屈曲中央に大きな穿孔を施す本類例は、福島県寺脇貝塚や保美貝塚でも認められる。本例も晩期中葉以降のものと考えられよう。

固定鉗（逆棘付刺突具） 2 は組み合わせの形状を呈するもので、全体の形状としては、宮城県里浜貝塚など仙台湾岸で広く出土しているものと類似する。蟹沢遺跡の所在する仙台湾までは直線で 50km ほどの距離であり、奥羽山脈を挟んで、同様の道具が保有されていたといえる。河川漁撈に使用された事例なのか、狩猟具（槍）として使用されたか、日常的な道具使用とは別の事情で象徴的に持ち込まれたものか、評価は改めて行いたい。

4. まとめ

本稿では、蟹沢遺跡出土骨角器の中で、鹿角製装身具類（腰飾り）と固定鉗（逆棘付刺突具）を紹介した。特に、固定鉗（逆棘付刺突具）は内陸部で出土した数少ない事例であり、ほぼ同時期の長野県長野市宮崎遺跡でも出土が知られる（矢口ほか 1988）。晩期中葉頃以降には、広く内陸部でも同様の刺突具の使用があったのかもしれない。

本稿を草するに際して、東根市教育委員会の方々には、多大なるご配慮を賜った。末尾ではあるが謝意を表する次第である。

引用・参考文献

- 阿部明彦・加藤稔ほか 1989 『東根市史別巻上 考古・民俗篇』東根市
川添和暁 2011 『先史社会考古学—骨角器・石器と遺跡形成から見た縄文時代晩期—』六一書房
川添和暁 2017 「保美貝塚出土骨角器・貝器について」『保美貝塚』330～343 頁 田原市埋蔵文化財調査報告書第 11 集
川添和暁 2019 「東海地方の貝塚に残された副葬品」『身を飾る縄文人 先史文化研究の新展開 2』71～88 頁 雄山閣
春成秀爾 1985 「鉤と霊—有鉤短剣の研究—」『国立歴史民俗博物館研究報告』7. 1～62 頁 国立歴史民俗博物館
矢口忠良ほか 1988 『宮崎遺跡』長野市の埋蔵文化財第 28 集
渡辺 誠 1962 「山形県発見の鹿角製腰飾」『古代文化』9-4. 82 頁 財団法人 古代学協会